

基調講演

「白砂青松の公園―浜寺公園が紡いだ150年の歴史―」

基調講演 「白砂青松の公園―浜寺公園が紡いだ150年の歴史―」

大阪府特別顧問 橋爪紳也

ただいまご紹介いただきました橋爪です。

まずは浜寺公園150周年、誠におめでとうございませう。この公園を寿ぐ日に、基調講演を担当させていただきますというのを光栄に思っております。

浜寺に関してこれまで二冊の本、いくつかの論文で、公園あるいは周辺の開発の歴史などを紹介して参りました。堺市では歴史的な町並みの維持整備の検討について、委員を長く担当しております。また高石市でも浜寺界限については、高師浜線を残そうと高石市役所とご一緒に様々な検討を進めてまいりました。東羽衣の駅が高架になり、その周辺整備についても、高石

市役所と一緒に計画立案をさせていただいてきた経緯があります。

本日は浜寺公園の最初の状況、毎日新聞社と海水浴場の経営について、そして住宅地としての浜寺と高師浜の発展と戦後の話をさせていただければと思っております。



当時の堺の絵図



上記絵図 浜寺地区を拡大



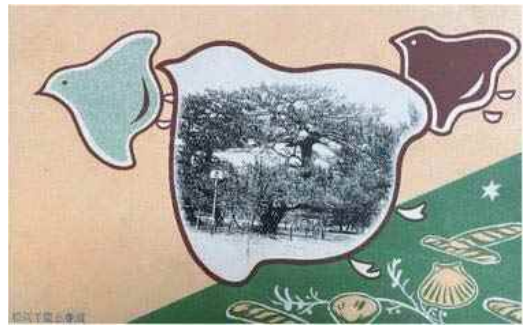
※出典記載がない図版はすべて
橋爪紳也コレクション提供。
無断転載を禁じます。

1 松の浜寺

そもそも江戸時代等々の浜寺・高師浜では、大阪湾に面して防潮林が人工的に植樹されました。松林が美しかったということでのこのように絵図が残っており、名所として古くから認知されてきました。

明治元年に新田開発をしたいという地権者が現れましたが、視察に来られていた大久保利通が浜寺の美しい風致は残すべきだと指示をされ、松林を残すことになりました。その後、大阪府が浜寺に公園を開設しました。

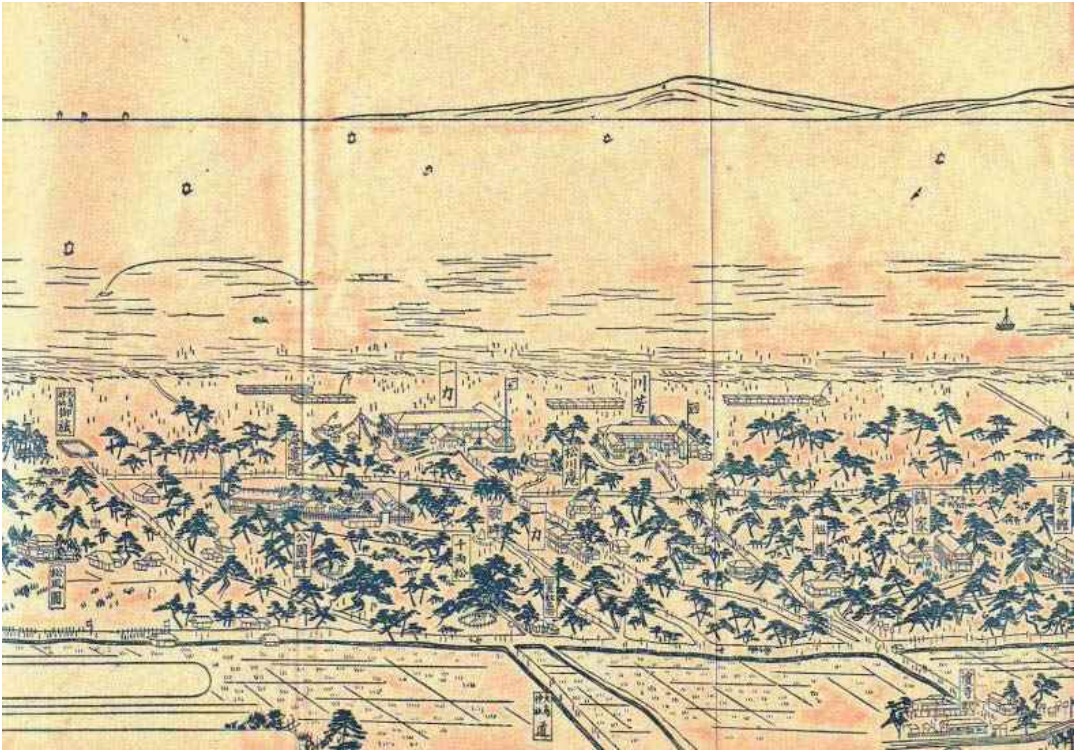
この「公園」という言葉は江戸時代までは一般には使われていませんでした。遊園や庭園はありましたが、「公の園」という意味で、明治維新政府が「公園」という言葉を使い始めました。明治6年に太政官布達第16号により、大阪・東



京・京都などにある「人民輻輳の地」、「古来の勝区」、「名人の旧跡地」など従来からの群衆遊覧の場所を公園としたのが最初の公園の定義でした。例としては東京では浅草寺や寛永寺の境内、京都では八坂神社や清水寺、嵐山などが挙げられます。

社寺境内地は、古くから人々が集まる場所でした。その地を「永く万人偕楽の地」として確保するために府県が「公園」として定めたかたちです。「公園」ができたのは、150年前のこの制度からとなります。

ここでのポイントは、長い期間多くの人々が集まり行楽を楽しむ場所こそが公園だったということです。また寺院が公園とされているのは、明治政府が廃仏毀釈を進めるために上知令を出し、寺の境内地などを取り上げたことも背景に



あります。この段階では自然環境保全や緑化という概念は、公園にはなかったと思われれます。

その後、日本中各地で府県が公園を指定していきます。明治20年までに全国で80ヶ所ほど公園が指定されますが、大阪府下では明治6年に浜寺公園と住吉公園が最初に公園に指定されました。それから150年が経ちます。

浜寺公園は明治6年に開設されましたが、現在とは全く公園の概念が違っていました。公園の中の様々な場所を民間の方々の方々の別荘や料理旅館等として賃借していました。特に明治21年に日本中でコレラが大流行した際は、健康のための保養施設が必要ということで、大阪の天保山と同様に、沸かした海水を浴びてコレラ発症者を長期療養する海浜院が浜寺公園内で開設されました。



公園開設当初の絵図ですが、公園の中にたくさん
さんの建物が並んでいて、料理旅館の松川庵や
一力楼の浜寺支店などが立ち並んでいる様子が
描かれています。

その後、南海鉄道（現南海電鉄）が浜寺駅を開
業し、鉄道が開通しました。また公園整備の中で、
大久保利通が松を残したということを継承する
惜松碑ができ、日露戦争後にはロシア兵俘虜収
容所ができていました。

ここからは私の絵葉書コレクション（一部高
石市から資料拝借）を元にエピソードを紹介し
ていきます。この松の写真は、「羽衣の松」の写
真です。いつから始まったか正確には分かりま
せんが公園の中にある立派な松に名前をつける
ことがなされ、有名なもので言うと「羽衣の松
（現存していない）」があります。羽衣の天女伝

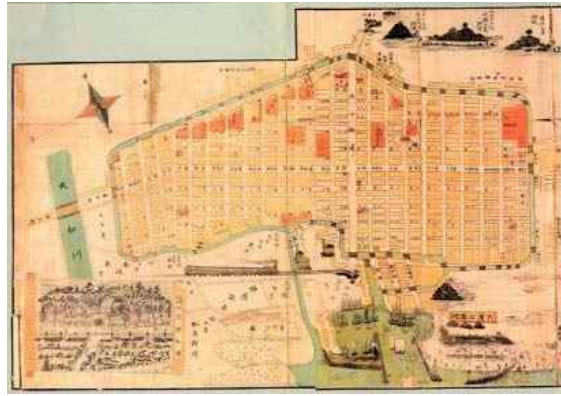


説は江戸や明治時期にはまだなかったと聞いていますので、この「羽衣の松」を元に羽衣という地名ができたのだと思います。

これは浜寺公園の雪景色の絵葉書ですが、当時は四季折々の浜寺公園の景色を絵葉書として紹介していたようです。次は浜寺公園の中で一番有名な料理旅館で、大浜にあった一力楼の浜寺支店です。このような建物が海岸沿いの風景がよい地区に並んでいました。

2 大阪毎日新聞と海水浴場経営

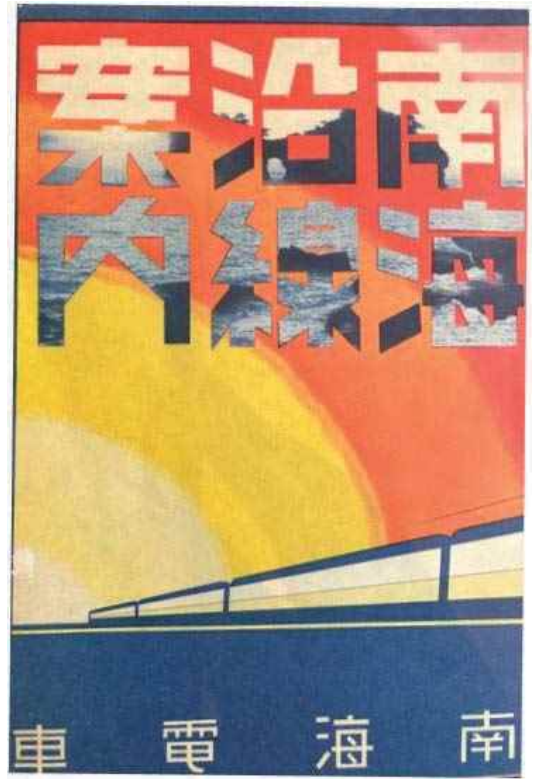
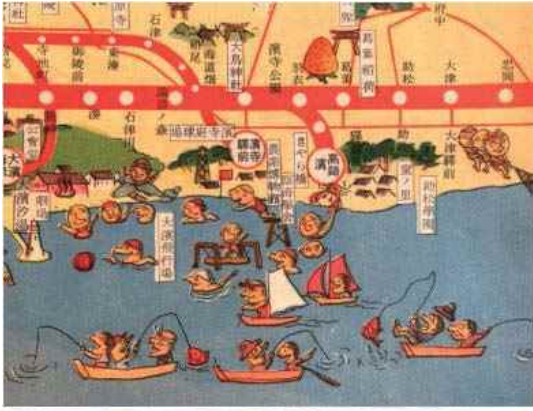
大阪毎日新聞社は浜寺の海水浴場とともに甲子園の海水浴場の経営もしていましたが、創業期より社主として活躍されていた本山彦一が浜寺に住まいを持たれていたということもあり、浜寺海水浴場の経営に力を入れたようです。



紹介する絵図には、日本で初めての民間の航空路ができた大浜も描かれています。当時、水上飛行機が高松や徳島まで乗客を運んでいました。また阪神間での遊覧飛行も行われていました。大浜では水族館や料理旅館街などが先行して集積し、リゾートとして発展をしました。そのにぎわいが浜寺の方にも移ってきました。

多くの人が浜寺に足を運ぶようになりました。背景には鉄道会社の激しい競争が大きく関係しています。明治21年に阪堺鉄道が堺まで延伸を行い、明治30年には南海鉄道が堺く佐野まで延伸し、浜寺駅が開業しました（明治40年に駅舎建替えとともに浜寺公園駅に改称）。

明治31年に南海鉄道が阪堺鉄道を買収し阪堺線となりました。明治45年には阪堺電気軌道が浜寺公園まで延伸し、翌年浜寺駅前駅が開業



しました。

大正7年には南海鉄道が高師浜線を開通し、昭和4年には阪和電鉄が浜寺支線を開通させました。現在の阪和線となる阪和電鉄は、最初は京阪電鉄系だったので、戦時中に南海電鉄と合併し、戦後は国鉄となり、現在はJRとなっています。

この時に南海電鉄は毎日新聞と組んで海水浴場を経営し、阪和電鉄は朝日新聞と組んで海水浴場を経営しており、競合関係にありました。鉄道マニアの伝説では阪和電鉄の電車が着いたら南海は踏切を上げない嫌がらせをしたと言われているほど両社が激しく競争していたそうです。

これは昭和11年の南海沿線案内で大浜の潮湯場や飛行場が掲載されており、隣には浜寺駅前、キャラバシ、臨海学舎と助松まで海水浴場と



海浜リゾートが並んでいたことが描かれています。もう少し南へ行くと、浜寺には地引網をする漁師の絵や浜寺テニスコートがあり、南海が力を入れていたリゾート地だったということが分かります。また中央には東洋で初めての農業博物館も描かれています。

この写真は当時の浜寺公園の入り口の風景、次に公園が整備されてできた音楽堂や浜寺公園内の遊園場の風景です。この遊園場の絵葉書にはお嫁さんが子どもと浜寺公園に来て、「余りに居心地がいいので家に帰りたくない。お母さんあとは家をよろしく。」というメッセージが書かれています。

明治30年に浜寺駅が開業した後、明治39年に海水浴場と現在の浜寺水練学校につながる海水練習所が開設されました。海水練習所が経営



された背景には、大阪毎日新聞社社長の本山彦一の「日本は海に囲まれている国であるので、日本人は誰しものがきちんと泳げなくてはいけない」という思いがありました。これは水練学校の写真で、毎日新聞社のマークが入った水着を着ている方や当時の指導風景が見て取れます。

これは毎日新聞社の海水浴場の正門です。正門の上に毎日新聞社の社印が載っていますが、この頃、毎日新聞社が浜寺公園で様々なイベントを行っていました。例えば海岸にスクリーンを張って船から見る映画大会や、海水浴場で鎧武者行列パレードが行われたこともありました。

日露戦争の開戦の花火で船を爆破するショーや、キャラメル宣伝で日本中を飛び回っていた森永の飛行船が浜寺に来てキャラメル撒きが行われたこともありました。

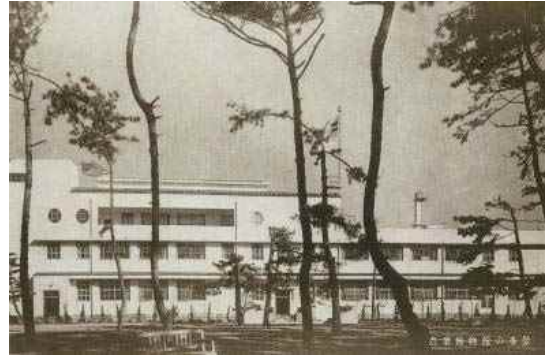


高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション



またこの頃、海の上に様々な遊具や施設が作られました。例えばシーソーや滑り台、ブランコ、飛び込み台が挙げられます。これは高石市からお借りした資料ですが、飛び込み台から毎日新聞社の宣伝傘をさして海に飛び込むイベントもありました。

このように大阪府が浜寺公園を開設し、園内を別荘や料亭に貸与します。そして浜寺駅が開業し、大阪の都心から多くの方に来ていただくための事業として海水浴場や海水練習所が経営されました。また明治後半には浜寺石神診療所が開設され、浜寺阪濱倶楽部や浜寺公会堂も続いて開設され、ますます浜寺公園が充実していくこととなります。これは石神療養所の病室や動物を飼育している写真で、当時はこういった医療施設も公園内にありました。



大正になって海水練習所が浜寺水練学校に改称し、今のシンクロナイズドスイミングに継承されている団体演技が始まりました。昭和7年には本山彦一が作った富民協会がヨーロッパの最先端の農業博物館を見て、日本はこれから農業で産業を起こしていくべきだということで農業博物館を開設しました。そこで日本の農業に関心のある若者を集めて研修をしていました。

この設計を担当したのが戦後に高石町長となる中尾保という建築家で、農業博物館の設計者が後に高石の臨海コンビナート事業を推し進めていくこととなるのです。

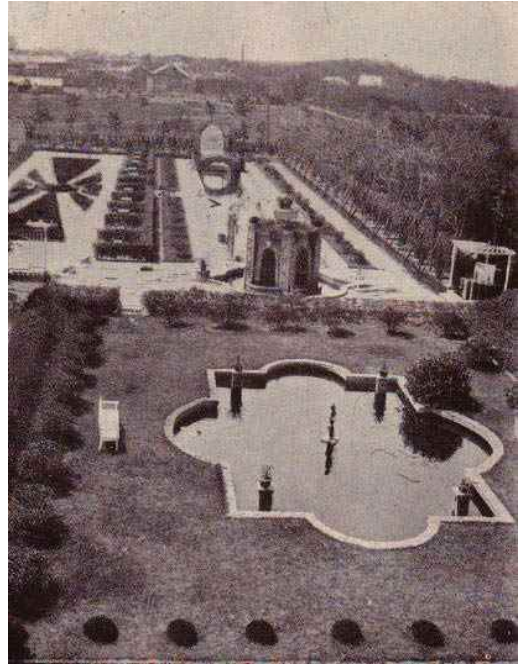
当時は様々な企業等が浜寺公園内で園遊会を実施していました。農業博物館があるので学校等が遠足や修学旅行等で、浜寺まで農業の勉強をしにくることがよくあったようです。



高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション

毎日新聞社はテニスコートやキャンプ場も運営しており、特に外国人が家族連れで避暑のために浜寺公園を訪れていました。期間限定のテント村には村長がおり、独自の運営がなされていたそうです。次の写真は浜寺公園の中であつたお子様向けのプールだそうで、6歳以下の子どもはここで水浴びをしていたそうです。

次の写真は前述の農業博物館です。当時としては斬新で綺麗な建物になっております。中にはこのように様々な農業の展示があります。本山彦一は新聞社の事業で南米のミイラなど古代の発掘調査を実施し、それを新聞記事で展開するということをしていたのですが、その本山彦一の世界の農業遺産や南米の考古的なコレクションもこの農業博物館に保存されていきました。その後、行き場がなくなつて、吹田の関西大学の方



に保存されています。まとめると教育・勉強のために、日本中から多くの方が浜寺公園を訪れていました。

3 住宅地としての浜寺／高師浜

大正の後半から昭和にかけて大阪を中心に住宅地開発が始まります。最初は大阪市内の富裕層が別宅を芦屋の山の手などに作ります。大阪では天下茶屋や帝塚山、天王寺周辺が人気でしたが、阪神間だけではなく、南の風光明媚なところに富裕層が大きな屋敷を構えるようになりました。大正から昭和の初めにはサラリーマンも月払いで買える住宅地が各所にできてきます。

浜寺や高石の動向を紹介しましょう。先に申しましたように、公園の中には先行して住宅や料理旅館がありました。明治39年には公園の中



に20戸から34戸ほどの別荘があつたそうです。大正11年には公園の中の別荘の数は130戸余りに増加したと資料には出てきます。これと同時に周辺には住宅ができてきます。これは高石側にあつた住宅です。当時はこういう大きな邸宅がありました

邸宅だけではなく、風光明媚な公園の近くに郊外住宅地を作る目的で、大正7年に浜寺土地株式會社が設立されます。大正8年には高師浜を開発する事業体である南海土地株式會社が設立されます。続いて、北浜寺土地株式會社や南浜寺土地株式會社が設立されました。当時「浜寺」という名前が郊外のリゾート土地として素晴らしいブランド力があつたということが会社名からも見て取れます。

これは土地會社要覽という戦前の大阪郊外の



住宅開発をした会社の経営資料です。浜寺土地の資料を見ると浜寺公園の横に南海線があり、その東側に住宅地を作ったことが分かります。今もこのあたりでは戦前の邸宅のような建物を見る事ができます。

北浜寺土地は、諏訪ノ森と石津川の間あたりで土地開発をしていました。浜寺周辺から少し離れますが浜寺という名前を使用していました。南浜寺土地は助松の駅前を開発していました。助松の辺りで浜寺という社名でいいのか悩ましいところです。

高師浜駅前の地元の方々が設立した南海土地は、夏の別荘地と大阪へ通勤する方が住む通常の住宅の両方を高師浜で開発していたことが資料からわかります。現在の高師浜の碁盤の目に整理された土地は、この大正の時期の土地会社



が整理したものになります。南海土地は山川七左衛門・中谷喜右衛門など名望家が出資をして、住宅地を経営していました。

もう一つ、浜寺公園に近いキャラバシにユニークな住宅地が開発されます。他の住宅地はヨーロッパ風の建物が多いのですが、キャラバシはアメリカ風の住宅地を作るということで開発されました。そのためガーデンシティという名称の住宅地が作られました。大正12年にキャラバシ園の第一期分譲が始まり、高師浜の住宅地を作った山川七左衛門の弟、山川逸郎が中心に計画、開発をしました。

逸郎は当時、大阪で自動車修理工場を経営していました。モーターゼーションを予見した逸郎はアメリカに渡り、自動車の技術を学び日本に帰ってきます。アメリカ滞在中、逸郎は日本の



暮らしとアメリカの暮らしの大きな違いを感じました。アメリカの住宅は素晴らしく、それを高師浜にも展開したいということで、大正8年に帰国して、大正12年にキャラバシ園の分譲を始めます。最初に自分の洋館を立て、そこをオフィスとして住宅地を作り上げたと聞いております。逸郎はアメリカ風の噴水のある公園と上下水道をすべて完備し、歩車分離を行った宅地を開発します。そして一宅ごとに敷地100坪以上の地下室や暖房設備がある住宅を提供しました。

逸郎は当時このように語っています。「西洋家屋に住んでみると、日本家屋のような無駄と、だらしのない事から脱し、すべてが規則正しく、秩序よく運ぶことで生活に余裕が生じる。」

ちょうど大阪でも、家の中の炊事や洗濯の労働をいかに合理的に便利にするのか、住宅改良



の活動が様々にあったのですが、キャラバシでも逸郎のアイデアで独自に新しい住宅を作ろうという活動が始まります。

逸郎は当時の日本の生活を「けだし、現在、不便にして不経済な生活は、勿論、今日の文化生活に適せず、なかんずく非活動的にして、骨董的な、我等日本人居住の古典的、其住宅の如きは、非文化的生活を象徴するものにして我等日本人は、一日も早くかかる現状より脱却して、能率多き文化生活を営むことは、自他共、真剣に考慮すべきき問題である」と語っています。

ここまですべてをまとめると、浜寺界限は新しい文化を取り入れて、最先端の生活を提示しているような場所であったということができると思えます。過去、最先端の街であり、公園も大阪で最初の公園として素晴らしいアイデアが盛り込ま



れていた、その精神を次の世代にも伝えて行く必要があると思っています。

4 戦後とこれからの展望

浜寺公園は戦後、昭和20年にGHQが接收し、占領軍の幹部の方々の高級住宅が建設されます。当時、大林組が戦後復興の業務を受託し、従来日本になかったような住宅地を作るのですが、大阪府所管の公園に戻った際にすべて撤去したと聞いております。

昭和36年に堺泉北臨海工業地帯の造成が着手されました。様々な関係者の尽力の元、昭和38年には浜寺プールが開設されます。当時の浜寺周辺の写真だと浜寺水路の空撮写真があります。浜寺水路を中心に、新しい道路や高石大橋が作られました。また周辺地区は工業地帯の間に



当時の工業地帯の写真①



浜寺水路 航空写真



当時の工業地帯の写真②



高石大橋 航空写真

緑地帯の道路があり、当時としては最先端のデザインだったのだらうと思います。

今日お話ししたように各時代で、時代の要請に応じて新しいことを踏まえてきたのが、浜寺公園及びその周辺地域の開発だったのだと私は思います。ぜひこの界限に住まい、楽しみ、そして働いている我々が、浜寺地域は素晴らしいのだと、他の大阪エリアや全国にアピールしていくということができれば思っております。

以上、浜寺公園の150年の話を、45分で話せという無理難題で後半は急ぎましたが、私からの講演は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

（図版は橋爪紳也コレクション提供。 ※無断転載を禁じます。）

講話

「浜寺水練学校 150 年の歩み」



にぎわう浜寺海水浴場
1937（昭和12）年ごろ撮影



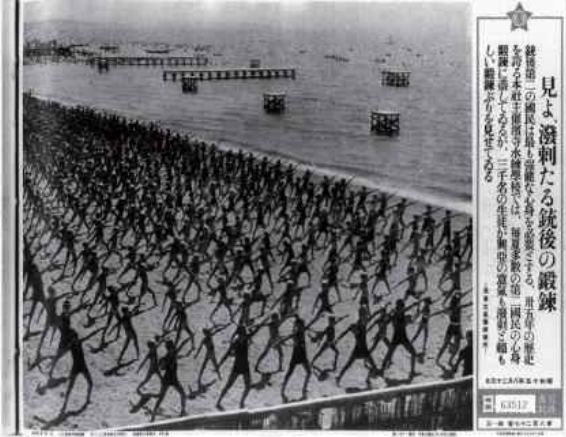
出典：毎日新聞社
浜寺水練学校

※無断転載を禁じます

「浜寺水練学校 150年の歩み」
毎日新聞社浜寺水練学校 名誉師範 伊佐美璋子

皆様こんにちは。浜寺水練学校の伊佐美と申します。橋爪先生が浜寺公園全体について素晴らしい講演をしてくださいましたので、私からは浜寺水練学校に絞った話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

橋爪先生からありましたように浜寺公園は日本で初めての公の公園です。昭和初期には別荘地としても浜寺が大きく広がっていたということでした。戦後には米国駐留軍が別荘を借りて住んでいたという話もかねがね聞いております。浜寺水練学校の元となる浜寺海水浴場は大阪の毎日新聞社と南海電鉄が設立したと聞いております。そして先ほどからは初期のころの浜寺



3000人の生徒が集合し体操する様子
1940（昭和15）年撮影



昭和初期の浜寺海岸
1937（昭和12）年ごろ撮影

海水浴場の写真を見て、今では危険性の観点から考えられない飛び込み台や海上ブランコがあったのだなと感じました。あんな危険なこと、今では絶対にやらせてもらえないものだと思います。今は危険を排除して安全第一で設計された施設がほとんどですが、当時は皆さんがものすごく楽しんで海上遊具で遊ばれていたようです。

これは毎日新聞社の浜に建てられていた事務所です。昭和初期のころまで、毎日新聞社がこの事務所です。昭和初期のころまで、毎日新聞社がこの事務所でいろんな仕事をされていました。事務所の奥に見えるのが海の家で、食事をしたり睡眠をとることができました。海の家は夏が過ぎると撤去され、夏が来るとまた建てられました。

次は浜寺水練学校の生徒が集合体操をする写真です。毎日新聞社の写真特報という記事の一部なのですが、これほど揃った集団体操をする



1959（昭和34）年本社機から撮影



浜寺海上ステージでのイベントの様子
1957（昭和32）年撮影

風景は今ではなかなか見られないです。次はとも楽しい写真です。これは海の上にある舞台の写真です。海上ステージと呼ばれていましたが、いろんなショーをやっていてこんなに多くの人々がステージを見に来られていました。私たちは浜寺水練学校で授業をしていたので、中々このステージを見に来ることはできませんでしたが、遠目ですごく盛り上がっているなど眺めていました。

次の写真は毎日新聞社のマークが見えますが、これは毎日新聞社の海上飛行機なんです。先ほどの海上ステージ周辺を飛行機から撮影した写真です。後方にはいろいろなお店やテントが見えます。例えば、がっちょ釣りや関東炊き（おでん）の店がありました。当時は長い砂浜に関東炊きの店などが並んでいて良い匂いがぷんぷんして



いたのを思い出します。

次は浜寺水練学校の昭和初期の授業風景です。これは海辺でバタ足の練習をしています。当時は写真のとおり男性の先生も全身水着を着ていて、生徒たちは禪（ふんどし）を着用していました。この禪を巻くのが中々大変で、生徒だけではうまく巻けないので、先生が手伝ってようやく着用ができた思い出です。そうしてようやく巻けた禪も、水に入ったらほどけてしまうということも多々ありました。波打ち際に練習しているのは、まだまだ泳げない子達でした。海というのは深さが一定なわけではないので、波打ち際の練習はなかなか難しく、波が来ると泳いでいる子たちが波にさらわれて沖の方に流されてしまいます。そのため先生たちは波が来ると男の子の禪をもって波打ち際にバーンと放り投



げていました。そうして子どもたちの安全を守っていました。5割水泳を教えて、5割子ども達の命を守っている、そんな授業でした。授業を経てどんどん泳げる子ども達が増えてきて、本当にたくましい子ども達だったなと感じます。

次は授業前の生徒全員での体操の風景ですが、この人数がすごい人数で一時は600人ほどの子どもたちがいました。少しずつ人数は減ったりもしましたが、毎年多くの子どもたちが集まってきてくれました。

これは浜寺中学校の一年生の水泳講習会の写真です。中学校の生徒が浜寺に来て、浜寺水練学校の先生が泳ぎを教えていました。中学生の皆さんも禪をしています。この時も禪をしたことがない子がたくさんいて大変だったのではないかなと思います。今はプールになっておりま



浜寺水練学校、教室での授業風景。
1954（昭和29）年7月21日撮影



浜寺水練学校の風景。飛び込み台を使って練習する生徒たち
1951（昭和26）年8月2日撮影

すが、夏の初めに清風中学校の生徒さんが浜寺プールに来て、浜寺水練学校の先生が授業をしています。

これは飛び込み台を使って、飛び込みの練習をする風景です。プールは深さが一定なので飛び込みの練習をしても安全ですが、海は潮の満ち引きで深さが変わるので、いざ飛び込むと思っていたより深さがなかったということがよくありました。

これは先ほど橋爪先生のお話にもありますが、後に高石町長となる中尾保さんが浜寺水練の師範をされていた時の写真です。中尾保さんだけでなく、浜寺水練学校にはいろんな技術をもった先生がいて、各先生が得意な泳ぎに関して授業をされていました。授業の後、海に出て教わった泳ぎを夢中で練習していると自分が何セ



浜寺水練学校 遠泳の様子



浜寺水練学校の風景。パタ足の練習をする生徒たち。
1954（昭和29）年7月21日撮影

ツトこなしたか分からなくなります。そんな時、ふと沖の海上から振り返ると浜寺水練学校が遠くに見える、そんなエピソードもありました。

これは何か分かりにくいと思いますが、浜寺水練の遠泳試験の写真です。泳げるようになり上のクラスに進むと、遠泳の距離が長くなり、みんなで列を組んで泳ぎます。クラスによって泳ぐ時間や距離が決められていて、最後の卒業試験の科目には一万メートル遠泳が課されています。先生が横について一緒に泳ぎますが、遠泳の授業には必ず集団の前に伝馬船が来ていました。ベテランの船頭さんが伝馬船に乗っていて、方向や時間を指示してくれていました。伝馬船の役割で最も重要なのが、潮の流れを読むことでした。何十分も一生懸命泳ぐのですが、潮の流れに邪魔されて全然進まないんです。一定時間



(右) 1953 (昭和 28) 年 浜寺海水浴場がアメリカ進駐軍宿舍用地として接収されたため、諏訪森海岸で開催された浜寺水練学校。



(左) 1954 (昭和 29) 年 11 月撮影 駐留軍の住宅地になった浜寺公園

※浜寺公園は 1947 (昭和 22) 年に米軍接収、1958 (昭和 33) 年に全面返還された。

泳ぐと合格ということになり、船頭さんに指示してくれる方向に従って、浜まで泳いで帰りました。一日中泳いでいるので、砂浜に帰るとへろへろで立って歩けませんでした。

遠泳のエピソードはもう一つあります。1947年(昭和22年)に浜寺公園が米軍に接収され、駐留軍の居住地になってからは、遠泳から浜辺へ泳いで帰る際に、駐留軍居住地の前の浜辺には決して上がってはいけないと言われていました。間違えて駐留軍の居住地の前の浜辺に上がってしまうと憲兵にこっぴどくやられたという話が残っています。

1958年(昭和33年)に全面返還されてからは、海水浴場に出るためには浜寺駅から続く3m幅の通路が作られており、そこを歩いて海水浴場へできるように指示されました。1954



(右)「浜寺公園」居留地内の臨時道路

1955 (昭和 30) 年 7 月撮影

(左) 波打ち際で点呼を受ける生徒たち、羽衣海水浴場で

1962 (昭和 37) 年 7 月 16 日撮影



※浜寺公園は 1947 (昭和 22) 年に米軍接収、1958 (昭和 33) 年に全面返還された。

年 (昭和 29 年) に海辺だけが接収から返還されましたので、この通路は実際には 1955 年 (昭和 30 年) に完成していました。

全面返還の 4 年後には、工業地帯を設立するために海が埋め立てられます。海辺が返還されて久しぶりに浜寺の海で泳ぐとなぜそうなってしまうたかすぐ納得しました。駐留軍の居住地からいろんなものが流れ出ていて、海に浮いていました。汚いという言葉では言い表せないほどの海の状態でした。ですから工業地帯として埋め立てられるのも仕方ないことなのかなという気持ちもその当時ありました。

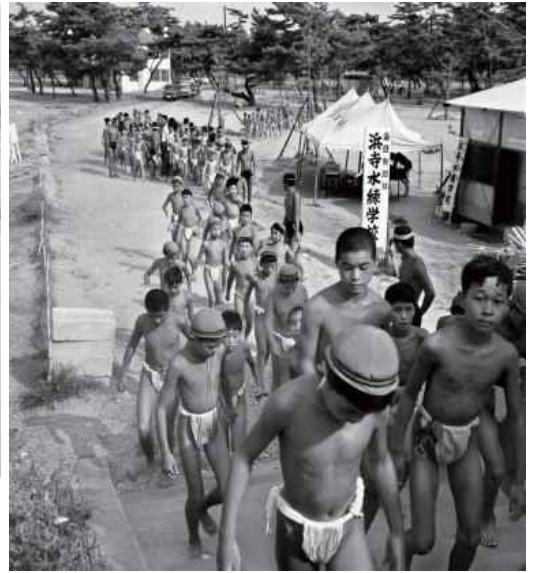
1962 年 (昭和 37 年) には浜寺の海はなくなりしました。写真は、浜寺水練学校が羽衣海水浴場の方で、海水浴場としては最後の授業をしている風景です。



1962（昭和37）年 羽衣海水浴場 波打ち際にて

最後に面白いなと思った写真を紹介します。
浜辺が盛況している写真なのですが、白黒の写真に色を塗った写真です。当時の昭和の浜寺の海を楽しんでいる姿、波打ち際の様子も本当に綺麗で、当時の様子がよく分かる写真です。

このような浜寺水練学校の歴史。この中にはちょっと自慢できることもあります。現在、水泳と言えばクロールが一番の泳ぎだと思われている方もいらっしゃるかと思いますが、かつて日本人の多くがクロールで泳ぐことができませんでした。それはアメリカの選手のクロールと競っても敵わなかったからです。当時浜寺水練学校が日本で初めてクロールを取り入れました。結果、クロールを日本水泳の泳法の一つに昇華させ、日本選手権でもクロールで一位になる選手も輩出しました。今は世界水泳やオリンピック

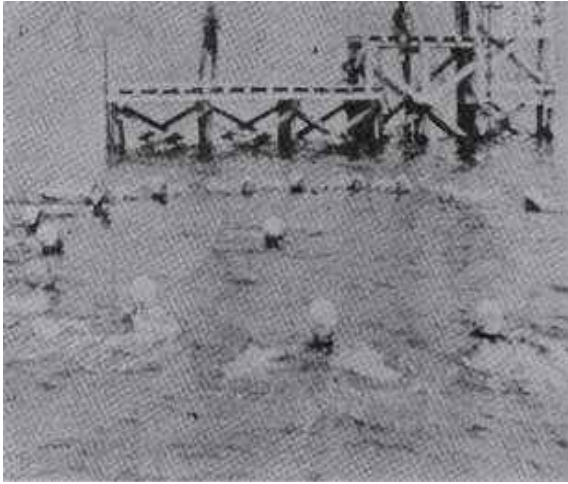


クがありますが、いろんな場所で様々な形で卒業生が活躍しています。

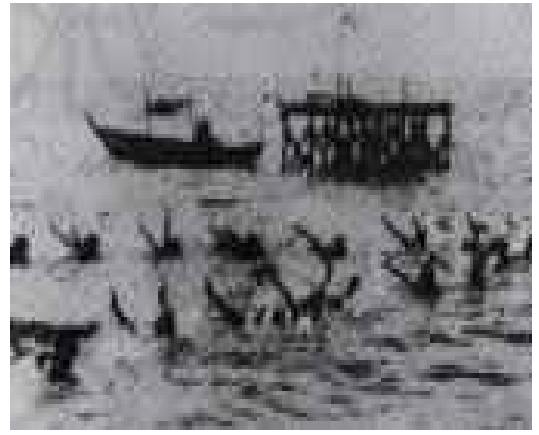
その中でも名前を分かっていただけなのは、高橋清彦先生です。今はアーティステイックスイミングと名前が変わっておりますがシンクロナイズドスイミングを日本に取り入れるきっかけをつくった方です。

元々浜寺水練学校では、大正の頃から浜寺名物として日本泳法の伝統的な泳ぎである抜手、舞鶴、伝馬、鷗泳などを一つの流れに組み立て、号令や笛の合図で集団演技する「らくすいぐんぞう楽水群像」という水中演技がありました。

昭和25年当時、扇町公園に大阪プールが建設され、戦後第一回日米水上競技大会が開催されるといふことで、エキシビジョンで楽水群像を



(左) 笛の合図で美女海におどる楽水群像



(右) 楽水群像

出典：毎日新聞社浜寺水練学校

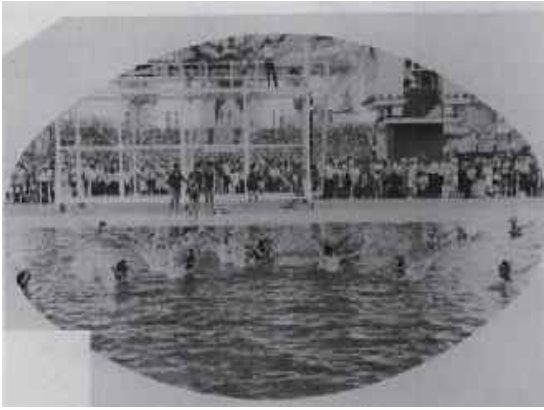
浜寺水練学校 OB会「水陽会」

披露することになりました。以前から海外のシンクロに着目していた高橋先生は、「太鼓や笛では困る」いうことで音楽と水泳を融合させた新しい楽水群像を披露しようと提案されました。それからメンバーは毎日、学校や仕事が終わってからプールに通い、振付を作っていました。

「楽水」の方が出来上がり、宝塚歌劇団の高橋廉先生に作曲をお願いし、新しい楽水群像が完成しました。そして来る8月1日の大阪プール開場日に新設された大阪プールで、一万人以上の観客の前で演技を披露しました。

今では考えられないですが、その演技の際には高価な純毛（ウール）の水着を着て演技をしました。私も演技に参加していたので、濡れた純毛水着がすごく重かったのを覚えています。

お話した通り、高橋先生は当時アメリカで行



(左) 大阪万国博のエキシビジョンでの「楽水群像」



(右) 大阪プールで楽水披露

出典：毎日新聞社浜寺水練学校

浜寺水練学校 OB会「水陽会」

われていたシンクロナイズドスイミングに目を付けて、それをしっかりと日本に引っ張ってこられた先生です。そして高橋先生の一番の目標はシンクロナイズドスイミングをオリンピック種目にするのでした。ただ、それにはやはり一年を通じて泳げるプールが必要でした。当時、一年中泳げるプールはありませんでしたので、高橋先生はご自宅の庭に窓付きのプールを作られました。そのプールでシンクロのオリンピック選手が生まれることになりました。

そしてシンクロナイズドスイミングが初めてオリンピック正式種目となったロスオリンピックでは、浜寺水練学校の選手やコーチが参加しました。高橋先生の大きな目標が叶った瞬間でした。そのコーチの中には、少し前に世界水泳で日本が金メダルをとった際にコーチとして活躍



しておられた井村コーチがいました。本当に頑張ってロス五輪に出場し、思いの丈を演技として披露し、涙した思い出がこみ上げてきます。

現在何人もの浜寺水練出身のコーチが世界で活躍されています。7月にありました世界水泳をこの目で見てきましたが、頑張っておられるコーチがたくさんいることを非常にうれしく思います。

これから第116回 浜寺水練学校に向けて頑張って参りますので、何卒よろしく願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

（出典…毎日新聞社浜寺水練学校 浜寺水練学校OB会「水陽会」 ※無断転載を禁じます。）

講話

「浜寺の由来とロシア俘虜収容所」



資料名：濱寺之由来

年代：大正12年

出典：大王寺所蔵

画像元：七野氏発表資料

※無断転載を禁じます

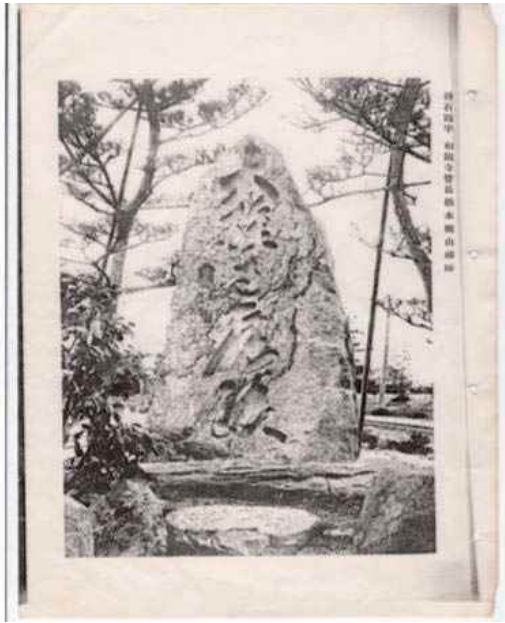
「浜寺の由来とロシア兵俘虜収容所」

郷土史愛好家 七野大一

こんにちは。七野と申します。私は浜寺という地名の由来とロシア兵俘虜収容所の話をさせていただきます。私は研究家というよりも、歴史が好きで郷土資料に詳しい人だと思ってお話を聞いていただければと思います。最後までご清聴お願いいたします。

1 浜寺の地名の由来

今回浜寺公園150周年ということで、浜寺公園は元々何だったのか、なぜ浜寺公園になったのかをお話させていただきます。これは大正12年に高石の地元の有志が作った、浜寺の地域の由来について記した「濱寺之由来」という本になり



資料名：濱寺之由来

年代：大正12年

出典：大王寺所蔵

ます。

橋爪先生の講演でもありましたが、150年前に住吉公園など神社やお寺の所有地が公園に変わっていったということでした。実は、現在浜寺公園がある場所も寺の所有地だったと記述に残っています。その寺の名前は大雄寺と言います。大雄寺があったのは今から約700年前、南北朝時代のころになります。後醍醐天皇の次の天皇である後村上天皇が三光国師という稀代の高僧にお寺を造らせたのが始まりです。天皇勅令のお寺であるので、七堂伽藍（しちどうがらん）といって寺として具備すべき七種の堂宇（どうう）が全て揃った、今でいう四天王寺や東大寺のような大寺院だったと書物に残っています。大雄寺があった場所は、高石神社のあたりから諏訪ノ森の先の船尾のあたりまでが大雄寺の土地だった



資料名：大雄寺出土物

年代：不明

出典：高石市保管資料

と言われています。旧 26 号線沿いの夢一喜というステーキハウスがあるあたりから出土物が発見されており、そこに本堂があつて、そこから北の方に土地が伸びていたのではないかとされています。そのため浜寺公園自体は、もともと大雄寺の土地の中にあつた公園だったのかもしれない。

なぜ大雄寺がそこにできたのかというと推測になりますが、大雄寺の前には別の寺があり、その寺を改築して南朝型の大雄寺ができたそうです。浜寺公園から南に芦田川がありますが、そこは鎌倉時代後期・南北朝時代は港だったと記録に残っています。海外の陶磁器などが出土していることから物流の盛んな場所だったと推測でき、海の拠点にということで大寺院を建てたのではないかと思えます。なぜお寺が拠点にな



資料名：大雄寺石碑

年代：不明

出典：R5年9月

自身で撮影

るのかというと、昔のお寺は今と違い僧兵を置いており、戦があれば出兵する城のような役割を果たしていたからです。

次に海の拠点である大雄寺と浜寺という名称の関係についてお話しします。南朝型の寺は吉野に御所があったのですが、その吉野に日雄寺という寺があったそうです。日雄寺は通称「山の寺」と呼ばれており、それに対して大雄寺は「浜の寺」と呼ばれて「浜寺」と呼ばれるようになったと言われています。明治6年に公園名を決定する際にその通称を採用したのではないのでしょうか。というのも今も浜寺という住所は存在していますが、住所自体は浜寺公園ができた後につけられたものであるのです。住所よりも前に浜寺という名前、公園名があったのではないかと思われます。

大雄寺は南北朝時代の後も存続していたみた



資料名：大雄寺石碑②

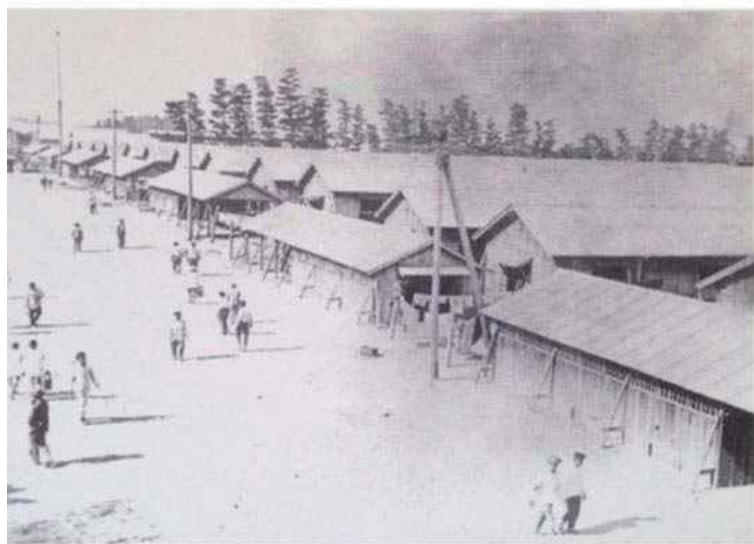
年代：不明

出典：R5年9月

自身で撮影

いなのですが、応仁の乱などの戦火で次第に衰退していったと言われています。ただ橋爪先生のお話にありました山川七左衛門が所持していた江戸時代の古地図には、高石神社が記載されており、その横には大王寺という寺が描かれております。発音が非常に似ており、何らかの形で、大雄寺から大王寺という名前に変わったのではないかと思います。現在も高師浜一丁目には大王寺というお寺があり、大雄寺の流れを汲む歴史ある寺院とされます。

ちよつとした逸話になりますが、海の拠点となっていた大雄寺ですが、電話もなく文は人が歩いて届けないといけない南北朝時代で、一日で吉野の通達を浜寺の大雄寺までお知らせする方法があったそうです。まず吉野で狼煙を挙げたら、次に千早城がある千早赤阪村で狼煙を上



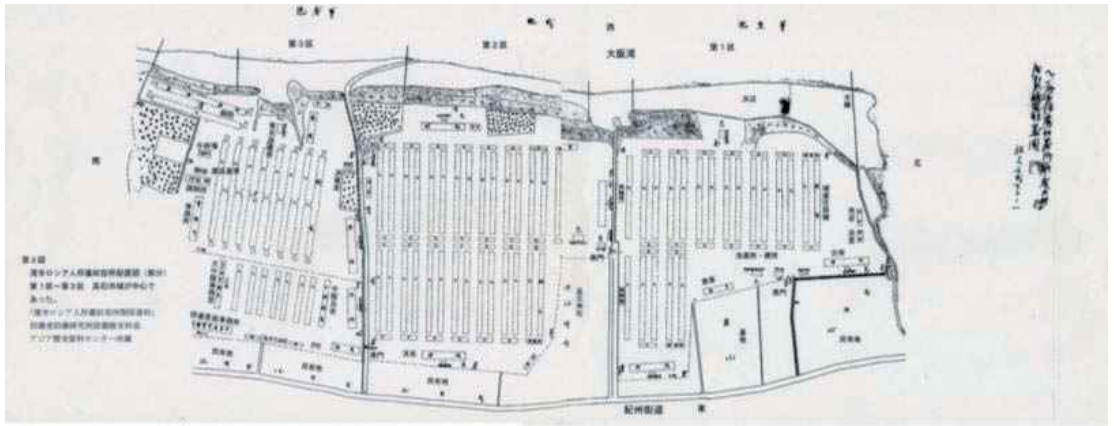
資料名：浜寺俘虜収容所風景

年代：明治38年

出典：高石市

げる、そして次に堺の南区豊田にある小谷城が狼煙を上げて最後に大雄寺に知らせるといふ方法があったそうです。そのようにして大雄寺のある浜寺と吉野が密接に繋がっていたと言われています。

この写真は、大雄寺の石碑ですね。元々は先ほど出てきた夢一喜のあたりにあり、そこから移動を何度か経て、夢一喜から正面に伸びている道でキャラバシ遺跡があったあたりに建っています。横には「後村上天皇勅 三光國師開基 濱寺奮跡」と書かれた石碑もあり、まさしく浜寺に大雄寺を建てたという史跡になります。ちなみにこの石碑から一分ぐらいのところ、私の家があり、凄く縁があるなと思っています。



資料名：浜寺俘虜収容所配置図

年代：明治38年

出典：高石市

2 ロシア人俘虜収容所

次は浜寺公園が開設された後の話になります。日露戦争の際の浜寺俘虜収容所の話です。明治37年に日露戦争が始まりますが、その時に日本に連行されてきた俘虜（捕虜と同意）のロシア人を収容する施設として俘虜収容所が日本各地に建設されました。有名なのは松山の俘虜収容所ですが、一番多くロシア人俘虜が収容されたのは浜寺俘虜収容所とされています。

場所は正確には浜寺公園の中ではなく、浜寺公園の南側の芦田川の辺りから高石高校がある辺りまでが浜寺俘虜収容所でした。地図でいうところのような形です。当時、明治38年頃の高石村の人口は約3500人だったのに対して、連行されてきた俘虜は約2万8000人もいて、高石村の人口の何倍もの俘虜が連れてこられたということ



資料名：クワス

出典：Wikipedia

になります。そのため地図のとおりたくさん
の建物に並んでいます。

この時、日本国としてはいくらか敵国の俘虜で
あっても人道的な扱いをすべきだということ
で、収容所から高石村へも入って来られるよう
に塙もなく、自由に暮らせるようにしてい
たそうです。当時、高石村の人々との交流
があったそうです。敵国の俘虜にも手厚
い待遇を用意する日本人の武士道精神に
感銘を受けた俘虜もいるという逸話を聞
きます。

少し面白い話を紹介します。これはクワ
スという飲み物の写真です。ロシア製の
お酒で、ビールに近い飲み物だそうで
す。アルコール度数はそんなに高くなく、
微炭酸のお酒で、これを俘虜たちが収
容所内で作り、高石村の住民に振舞
ってくれていたそうです。ある高石村の
住民が



資料名：浜寺公園日露友好の像

年代：H25年撮影

出典：自身で撮影

クワスを自分たちで生産して一儲けしようとしたが、結局日本人の口には合わず全然儲けられなかったという話が残っています。

先ほど橋爪先生のお話の中で南海土地が浜寺公園の近く、今でいう高師浜2丁目、4丁目の周辺の区画整理をした話がありましたが、その前に実はこの俘虜收容所の地図のとおり、收容所が並んでいた配置が元になって浜寺周辺が整理されたのではとされています。現在浜寺公園の南側入り口から伸びる通りは、芦田川をこえて高石高校まで続いています。今は海岸通りと言われています。この海岸通りは一枚目の收容所の写真に映っている通りかと思われすが、現在でも私より少し前の世代の人はこの道をロシア道と言っています。

高石村民にとってはロシア人俘虜收容所がで



資料名：希望の花 DVD ジャケット
年代：2010年
出典：高石商工会議所青年部

きたことはかなり大きな出来事でした。高石市は和泉の国でいうと泉州の最北端に当たるのですが、昔を重んじるよりも新しいものや海外のものを取り入れる住民が多いイメージがあります。それはひよっとすると、ロシア人俘虜収容所の時代に、珍しい白人の方からいろんな話を聞いて柔軟な姿勢が身についたからではないかと思っています。

ご存知の方も多いと思いますが、浜寺公園内の羽衣青少年センターの前に日露友好の像が建っています。ロシア人俘虜収容所があったが、同時に日露友好の証として建てていると刻まれています。

これは2010年に「希望の花」というタイトルで、ロシア人俘虜収容所時代の話アニメーション化しました。ストーリーはロシア人俘虜



資料名：希望の花 DVD ジャケット
 年代：2010年
 出典：高石商工会議所青年部

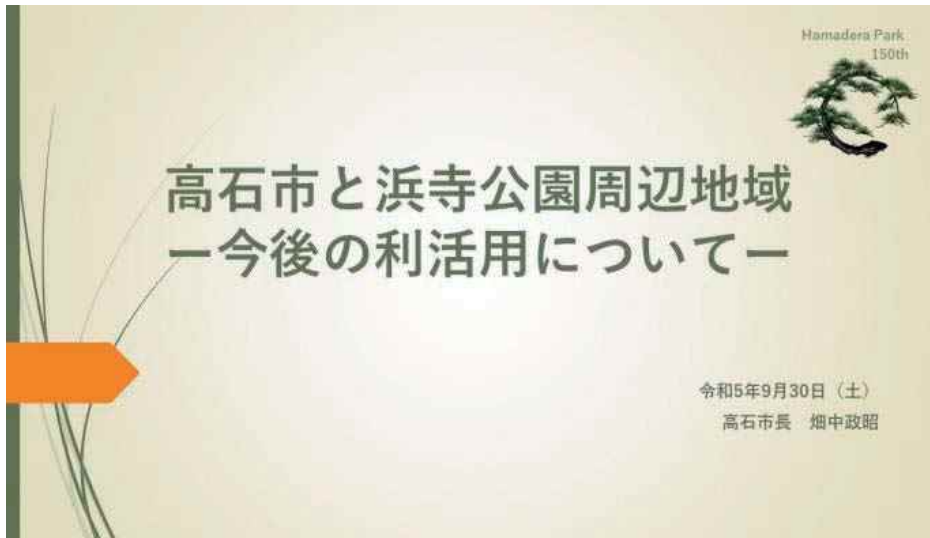
が地域住民と繋がって友好的な関係を築いてい
 たという話になっております。高石商工会議所
 青年部が作成し、私は原画を担当させていただ
 きました。

浜寺公園ができるさらに前の話でしたので、
 中々写真がありませんでしたがお伝えしたいの
 は、浜寺公園ができる前には歴史的なお寺があ
 り、その名残で浜寺という名称が残っていると
 いうことです。ご清聴ありがとうございました。

（画像元…七野氏発表資料 ※無断転載を禁
 じます。）

講話

「高石市と浜寺公園周辺地域—今後の利活用について—」



画像元：畑中市長発表資料

※無断転載を禁じます

「高石市と浜寺公園周辺地域—今後の利活用について—」

高石市長 畑中政昭

皆様こんにちは。高石市長の畑中政昭でございます。本日は、このような貴重な機会をお与えいただきまして誠にありがとうございます。そして七野さんの非常に示唆に富んだお話を前段でお聞かせいただきましてありがとうございます。今までのお話は非常に素晴らしくて、これまでの経緯や原点についてのお話でしたが、私は少し趣向を変えまして、これからの街作り、未来についてという視点でお話をさせていただきましたと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

高石市と浜寺公園周辺地域—今後の利活用について—という表題ですが、浜寺公園はまずも



浜寺公園を「面」で捉える



ちまして、高石市の所有運営ではなく、大阪府が所有されており、公園管理事務所さんが運営されております。ですから私が浜寺公園をこうしたいなあしたいと言いましても越権行為になってしまいます。とはいえ浜寺公園と周辺の高石市がそれぞれ別々の方向を向いていても、お互いの相乗効果が図れなくなります。そのため是非とも浜寺公園、大阪府、そして堺市と一緒に同じようなビジョンを持って連携をさせていただいて、周辺地域を利活用させていただきたいと思っています。そのような視点で皆様にプレゼンをさせていただきます。

まずは浜寺公園周辺を面で捉えます。一番上にあるのが大阪府の所有している浜寺公園。そして南の漁港のようなところに黄色で市と書いておりますが、これがマリーナや高石漁港です。



旧図書館・市民会館跡地（高石市）



これも以前は大阪府の所有でしたが、大阪府から移管され、今は高石市で所有させていただいております。その一つ南に大阪府の所有の臨海スポーツセンターがあります。先日も、高橋大輔選手が周年の事業で来られていました。その南は20年前に皆様ご利用いただいていた図書館と高石市民会館があった場所になります。

このように浜寺公園の地域は大阪府と高石市が連続して繋がっていることから、先ほど冒頭に申し上げましたように同じ方向を向いて、この地域を整備・整理していききたいと考えております。

まず旧図書館・市民会館跡地の整備方針をお話させていただきます。スライドでいうと一番南のところですが経緯を少し申し上げますと、旧市民会館と旧図書館はどちらも平成15年に



旧図書館・市民会館跡地（高石市）

旧市民会館…平成15年 休館

旧図書館…平成15年 休館

旧郷土資料室…平成21年 休館



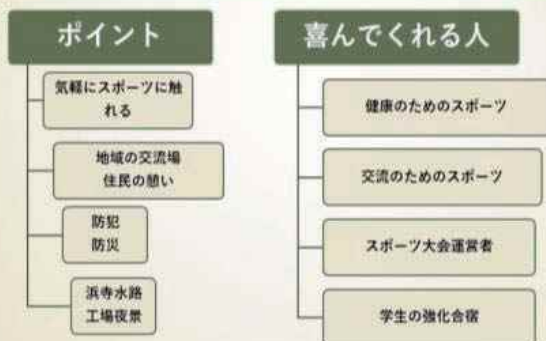
休館をして、図書館については、現在は高石駅前のアプラ高石という施設に移設されています。また旧郷土資料室も平成21年に休館をしており、今ではアプラ高石の図書館の方に資料が保存をされている状況です。この旧図書館・市民会館跡地を『稼げる拠点にする』というのが現在、高石市役所で進めている整備方針です。

この稼げるということは利益をたくさん産むということよりは、経済を地域で循環させたり、雇用が生まれたり、にぎわいが生まれるということを指しています。先ほど伊佐美師範の講和にもありました、過去のにぎわいはやはりすごかったですね。6000人もの方々が砂浜で遊んだり、水練をされていました。このようににぎわいの拠点としても再整備していきたいなと思っております。



旧図書館・市民会館跡地（高石市）

稼げる拠点として再整備



稼げる拠点とするための再整備のポイントは大きく4つございます。1つ目はスポーツ拠点であることです。臨海スポーツセンターや、先ほどの地図では触れていなかったのですが、南にはサッカー場、野球場、スケートボード場そして、3×3のバスケットコートも整備されております。2つ目に地域の交流の場、住民の憩いの場となる点。次に防災の拠点であること。南海トラフ地震が発生した際に臨海工業地帯の方々避難する場所として一つでも多く高台があった方がいいという観点からも施設整備が必要だろうと考えています。そして最後に浜寺水路や工場夜景もポイントになってくると思います。

ではこの整備によって市民の皆様にご喜んでいたただけるのかをまとめました。まず一つにスポーツを通して健康になっていただきたい。



臨海スポーツセンター（大阪府）



そしてスポーツを通して交流を図っていただきたいと思っています。現在臨海スポーツセンターや浜寺水路を挟んだ漕艇センターなどでは学生などが多く集まる大会や強化合宿などが行われております。全国各地からたくさんの方が集い交流し、市民のみなさんにも使っていただける施設になれば、活気溢れるエリアになると思っております。

次に施設の中にどのようなコンテンツを取り入れるのかというと、一例としては温浴施設です。今サウナが流行っておりますが、そういったサウナなど健康増進のための温浴施設は集客が見込めると考えています。次に稼げるという面で市外からの集客を見込めるようなショップを誘致する。そうすることで収益を生み、持続可能性のある循環型施設としていきたいと思っています。



スケートリンクを原点とする施設



ます。そして最後に憩いの場として水辺のオープンスペースです。先ほどいろんな原点に触れるお話がありました。現在目の前には工業地帯があるとはいえ、やはり水辺を活かすという当時の原点を外してはならないと思っておりますので、水辺のオープンスペースとして皆様が憩える場を提供したいと思っております。これが旧市民会館跡地の整備計画となります。

一つ北に上がると次は臨海スポーツセンターがあります。高橋大輔選手や村上佳菜子選手が来られたように、スケートリンクがこの施設の原点の一つなのかなと思っております。数ヶ月前にはりんスポ50周年ということで大きな大会が行われました。この臨海スポーツセンターは以前、大阪府の方で施設の耐震化が進んでいないという点から、一旦は廃止という方向にな



高石漁港・マリーナ（高石市）



民会館・図書館跡地と浜寺公園を円滑に繋げる導線を確認することが重要と考えております。この高石漁港周辺では朝昼晩とランニングされている方が非常に多くいらっしゃいます。先ほど七野さんからもありました海岸通り・ロシア道と呼ばれているところも散歩されている方が多いので、皆様がここを仕方なしに通るのではなく、風景を楽しみながら浜寺公園に行けるような整備がこれから必要なんじゃないかなと思っています。

この漁港周辺の風景は私が子どもの時から変わっておりません。私が若い時は、市民会館、図書館を通過して、りんスポを通過して、漁港を通過して浜寺公園の運河に行き、友達とよく語り合っていました。そんな風に市民の皆様と親しみやすいような風景がここにはあるのかなと感じます。



スポーツ施設と浜寺公園を結ぶ漁港

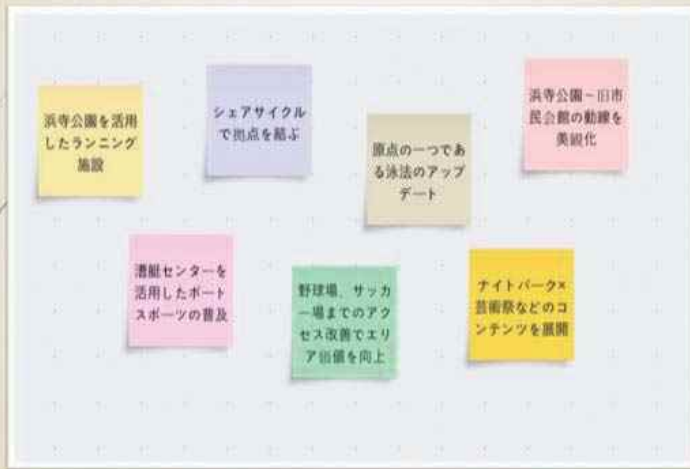


これら旧市民会館・図書館跡地、臨海スポーツセンター、そしてこの漁港・マリナー、そしてなにより浜寺公園がそれぞれ掛け算されているような未来が必要ではないかと思っています。

次のスライドではアイデアを列挙させていただいております。例えば浜寺公園を活用したラニング施設を整備する。大阪城公園などでは、スーツで訪れてもランニングができるように、ウェアや靴の貸し出しがあり、シャワーを完備しているような施設もあります。すべて説明すると長くなるので、もう一つだけ挙げさせていただきますと、一番右下のナイトパーク×芸術祭などのコンテンツの展開です。夜の公園というところ少しおどろおどろしいイメージがありました。今日では日本各地の公園で夜のエンタメやナイトサファリを行い、夜でも公園を楽しんでいた



それぞれが掛け算される未来へ



だけの施策がなされています。

コロナ禍で中止になっていたかもしれませんが、浜寺公園のばら園で夕暮れ時にジャズコンサートが行われていて、これも夕方と夜の公園の良い楽しみ方かなと思います。

このように大阪府、堺市そして浜寺公園、そして何よりも地域の皆様と意見交換をしながら、公園とその周辺地域を市民の皆様が楽しめるような整備を進めてまいりたいと考えております。私からの発表は以上とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(画像元…畑中市長発表資料 ※無断転載を禁じます。)